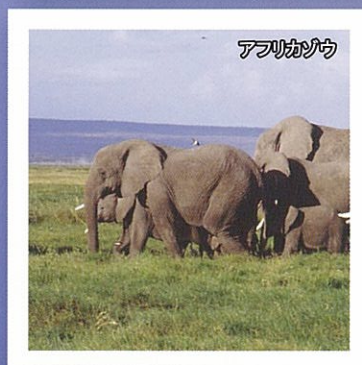


2008年度

京都大学野生動物研究センター年報
Wildlife Research Center, Kyoto University



2008 年度

京都大学野生動物研究センター年報

Wildlife Research Center, Kyoto University

目 次

1. 巻頭言	1
2. 野生動物研究センター憲章	2
3. 組織概要	2
4. 2008 年度スタッフ	3
5. この一年の動き・活動	4
6. 2008 年度研究業績	
執筆文章(和文)	6
執筆文章(英文)	7
学会等での発表・講演(日本語)	9
学会等での発表・講演(英語)	12
制作した映像・番組	13
受賞	13
7. 新聞・雑誌等に掲載された記事	14
8. 附属観察所利用実績	
幸島観察所	15
屋久島観察所	16

1. 巻頭言

野生動物研究センターは、2008年（平成20年）4月1日に、京都大学学内共同教育研究施設として開設された。この年からちょうど50年前、本学の今西錦司、西堀栄三郎、桑原武雄の諸先輩が、アフリカで初めての類人猿調査、南極初越冬、ヒマラヤ・チョゴリザの初登頂をそれぞれ達成し、「探検大学」の異名を築き上げた。その節目の年に本研究センターが発足したことに感慨を覚える。

本センターはまだ独自の研究棟を持たない小さな部局ではあるが、現在、動物園科学・保全生物学・人類進化科学・比較認知科学・健康長寿科学の5つの部門をもち、1つの寄附研究部門（株）三和化学研究所チンパンジー・サンクチュアリ・宇土）と事務掛で構成される。また、発足と同時に宮崎県・幸島観察所と鹿児島県・屋久島観察所という2つの国内研究拠点が霊長類研究所から移管され、この他に海外で7つのフィールド研究拠点を運営している。さらに、国内では初めてとなる大学と動物園の連携を実現し、京都市動物園及び名古屋市東山動植物公園とより実践的な教育研究を進めると共に、民間の研究機関である（株）林原生物化学研究所・類人猿研究センターとの共同研究も行っている。

本センターは、野生動物に関する教育研究を通じて、地球社会の調和ある共存に貢献することを目的としている。そこで、野生動物、とくに生態系のシンボルとなる「アンブレラ種」や「絶滅の危機に瀕する動物」を対象にした実践的・実証的な研究を展開していく。京都大学には、自然そのものを学問対象とするフィールドワークという研究の伝統がある。しかし、野生の現場だけではなく、身近にいる希少種、すなわち野生ではもはや出遭うことすら困難な希少種が暮らす動物園や民間の研究機関と連携し、ライフサイエンスをはじめとする多様な研究を統合することで野生動物保全学、動物園科学、自然学といった新しい学問が創生されるだろう。京都大学が培ってきた歴史と伝統と人材に加え、これまで築き上げてきたフィールドワークというユニークな研究基盤がきっと生かされるはずである。

今後、本センターがより一層発展するためには、学内だけでなく学外や海外の研究者・機関とも連携し、より次元の高い学際的研究を推進できる機関に成長していかなければならない。そのためには、松本紘総長はじめ本学の理事・副学長や学内の教職員及び学外関係者の方々のご指導やご教示が不可欠である。この紙上を借りて、これら多くの方々にさらなるご支援とご協力をお願い申し上げたい。

京都大学野生動物研究センター
センター長 伊谷 原一

2. 野生動物研究センター憲章

(平成 20 年 2 月 5 日制定)

京都大学野生動物研究センターは、野生動物に関する教育研究をおこない、地球社会の調和ある共存に貢献することを目的とする。その具体的な課題は次の 3 点に要約される。第 1 に、絶滅の危惧される野生動物を対象とした基礎研究を通じて、その自然の生息地でのからしを守り、飼育下での健康と長寿をはかるとともに、人間の本性についての理解を深める研究をおこなう。第 2 に、フィールドワークとライフサイエンス等の多様な研究を統合して新たな学問領域を創生し、人間とそれ以外の生命の共生のための国際的研究を推進する。第 3 に、地域動物園や水族館等との協力により、実感を基盤とした環境教育を通じて、人間を含めた自然のあり方についての深い理解を次世代に伝える。

京都大学野生動物研究センター設置準備委員会

3. 組織概要

センターの研究は、野生動物のこころ、からだ、くらし、ゲノム、そして健康長寿の探究をめざします。そのために、下記のような 5 つの研究部門で構成されています。さらに 1 つの寄附部門、国内に 3 つの研究拠点、海外に 7 つのフィールドワークの研究拠点があります。

1. 研究部門

比較認知科学、動物園科学、保全生物学、人類進化科学、健康長寿科学

2. 寄附部門

福祉長寿研究部門

3. 国内の研究拠点

幸島観察所、屋久島観察所、チンパンジー・サンクチュアリ・宇土

4. 海外の研究拠点

ボルネオのダナン・バレイ、タンザニアのウガラとマハレ、コンゴのカフジとワンバ、ガボンのムカラバ、ギニアのボッソウ・ニンバ

なおセンターの運営は、協議委員会でおこない、諮問機関として、連携協議会があります。

4. 2008 年度スタッフ

教員

センター長・教授:伊谷 原一 (いだに げんいち)
教授:幸島 司郎 (こうしま しろう)
教授:村山 美穂 (むらやま みほ)
准教授:杉浦 秀樹 (すぎうら ひでき)
准教授:田中 正之 (たなか まさゆき)
准教授:中村 美知夫 (なかむら みちお)
准教授:HUMLE, Tatyana (はむる, たちあな) (外国人客員)

寄附部門教員 (チンパンジー・サンクチュアリ・宇土)

准教授:中村 美穂 (なかむら みほ) (時間雇用)
助教:森村 成樹 (もりむら なるき) (特定有期雇用)
助教:藤澤 道子 (ふじさわ みちこ) (特定有期雇用)

事務職員・技術職員・非常勤職員等

事務長:小倉 一夫 (おぐら かずお) (霊長類研究所と兼任)
事務掛長:福垣 重樹 (ふくがき しげき)
事務職員:飯場 美弘 (いしば よしひろ)
専門技術職員:鈴村 崇文 (すずむら たかふみ) (幸島観察所)
専門技術職員:冠地 富士男 (かんち ふじお) (幸島観察所)
教務補佐員:野上 悦子 (のがみ えつこ) (チンパンジー・サンクチュアリ・宇土)
教務補佐員:竹元 博幸 (たけもと ひろゆき)
教務補佐員:植田 祐子 (うえだ ゆうこ)
教務補佐員:加藤 和実 (かとう かずみ)
事務補佐員:阿部 恵 (あべ めぐみ)
事務補佐員:高橋 佐和子 (たかはし さわこ)

兼任教員

教授:渡辺 邦夫 (わたなべ くにお) 京都大学霊長類研究所教授
教授:長谷川 博 (はせがわ ひろし) 東邦大学理学部教授
教授:松林 公蔵 (まつばやし こうぞう) 京都大学東南アジア研究所教授
教授:松沢 哲郎 (まつざわ てつろう) 京都大学霊長類研究所教授
教授:山極 壽一 (やまぎわ じゅいち) 京都大学大学院理学研究科教授
教授:長谷川 寿一 (はせがわ としかず) 東京大学大学院総合文化研究科教授
教授:遠藤 秀紀 (えんどう ひでき) 東京大学総合博物館教授
准教授:友永 雅己 (ともなが まさき) 京都大学霊長類研究所准教授
准教授:半谷 吾郎 (はんや ごろう) 京都大学霊長類研究所准教授
准教授:平田 聡 (ひらた さとし) 林原類人猿研究所主席研究員

研究員等

日本学術振興会 外国人特別研究員:KAYANG, Boniface B (かやん, ほにふいす B)
日本学術振興会 特別研究員 PD:森阪 匡通 (もりさか ただみち)
外国人共同研究者:IMBERT, Marika (いんべる, まりか)

5. この一年の動き・活動

- 2008年 4月1日: 京都大学野生動物研究センターが設置される
4月1日: 京都市と京都大学との野生動物保全に関する教育及び研究の連携に関する協定書調印
4月11日: 野生動物研究センター協議員会 (於:吉田泉殿)
4月18日: 京都市と京都大学の連携に関する調印式 (於:京都市動物園)
5月16日: 野生動物研究センター協議員会, 大学院系 (分科) 会議 (於:吉田泉殿)
5月26日: 野生動物研究センター発足記念パネル展示 (於:百周年時計台記念館サロン) (~7月30日)
5月28日: 比較認知科学国際シンポジウム (於:芝蘭会館) (~30日)
5月30日: 野生動物研究センター発足記念シンポジウム (於:百周年時計台記念館)
5月30日: 野生動物研究センター連携協議会 (於:百周年時計台記念館)
6月12日: 野生動物研究センター協議員会, 大学院系 (分科) 会議 (於:吉田泉殿)
6月18日: 名古屋市と京都大学の連携に関する協定書調印式 (於:東山動植物園)
6月20日: 第1回京都市動物園連絡会議 (於:京都市動物園)
7月11日: 野生動物研究センター協議員会, 大学院系 (分科) 会議 (於:吉田泉殿)
7月12日: 第3回チンパンジー・サンクチュアリ・宇土運営委員会 (於:CSU)
7月22日: 第2回京都市動物園連絡会議 (於:京都市動物園)
7月26日: エネルギー環境教育関西研修 (愛媛県立松山西中等教育学校生徒 35名に対する教育研修) (於:吉田泉殿)
7月28日: 尾池総長幸島視察 (~30日)
7月30日: 大学院修士課程 入学試験 (於:理学研究科) (~31日)
7月31日: 野生動物研究センター協議員会, 大学院系 (分科) 会議 (於:附属図書館)
8月5日: 野生動物研究センター企画展 (於:百周年時計台記念館 1階企画展示室) (~10月5日)
8月7日: 名古屋東山動物園連絡会議 (於:東山動植物園)
8月18日: 屋久島フィールドワーク講座開催 (後援) (~25日)
8月24日: 公開シンポジウム「学び場としての屋久島を考える」(後援) (於:屋久島町総合センター, 屋久島町安房)
9月1日: 野生動物研究センター発足記念パネル展示 (於:百周年時計台記念館サロン) (~10月5日)
9月12日: 国際ワークショップ「チンパンジーとイルカの知性」協賛 (名古屋港水族館)
9月16日: 第3回京都市動物園連絡会議 (於:京都市動物園)
9月25日: 名古屋市東山動物園連絡会議 (於:東山動植物園)
10月10日: 野生動物研究センター協議員会, 大学院系 (分科) 会議 (於:吉田泉殿)
10月20日: 第4回京都市動物園連絡会議 (於:京都市動物園)
10月27日: 名古屋市東山動物園連絡会議 (於:WRC)
11月3日: AACKシンポジウム共催 (於:芝蘭会館)
11月9日: 東山動物園チンパンジー施設改修セレモニー
11月11日: 名古屋市東山動物園連絡会議 (於:WRC)
11月14日: 野生動物研究センター協議員会, 大学院系 (分科) 会議 (於:吉田泉殿)
11月15日: SAGA11・HOPEシンポジウム共催 (於:多摩動物園・東大駒場) (~18日)
11月18日: GAIN協議委員会 (於:東京駅サピアタワー)
11月19日: 第5回京都市動物園連絡会議 (於:京都市動物園)

- 11月20日: 自然学セミナー「性・病・老・死」共催 (於: 吉田泉殿)
- 12月上旬: 共同利用・共同研究拠点認可申請にむけ、コミュニティーからの要望書を準備
- 12月2日: 野生動物研究センター連携協議会 (於: 百周年時計台記念館)
- 12月2日: Jane Goodall 講演会 & 奈良裕之コンサート「自然の精霊と音霊」共催 (於: 百周年時計台記念館)
- 12月4日: 名古屋市東山動物園連絡会議 (於: WRC)
- 12月9日: 名古屋市東山動植物園再生委員会 (於: 地球環境研)
- 12月12日: 野生動物研究センター協議員会 (於: 吉田泉殿)
- 12月15日: 名古屋市東山動物園ミニワークショップ共催 (於: 東山動植物園)
- 12月17日: 第6回京都市動物園連絡会議 (於: 京都市動物園)
- 12月19日: 名古屋市東山動植物園再生委員会 (於: 東山動植物園)
- 2009年 1月16日: 野生動物研究センター協議員会, 大学院系 (分科) 会議 (於: 吉田泉殿)
- 1月20日: 名古屋市動植物園再生委員会 (於: WRC)
- 1月21日: 第7回京都市動物園連絡会議 (於: 京都市動物園)
- 1月24日: 第4回チンパンジー・サンクチュアリ・宇土運営委員会 (於: 名古屋ホテル新名)
- 1月30日: 名古屋市東山動植物園再生委員会 (於: 東山動植物園)
- 2月13日: 野生動物研究センター協議員会, 大学院系 (分科) 会議 (於: 吉田泉殿)
- 2月16日: 名古屋市東山動物園連絡会議 (於: 東山動植物園)
- 2月17日: 第8回京都市動物園連絡会議 (於: 京都市動物園)
- 2月20日: 熊本動物園改修構想会議 (於: CSU)
- 2月21日: 自然学セミナー「哲学する日常」共催 (於: 吉田泉殿)
- 2月24日: 大学院博士後期課程 入学試験 (於: 理学研究科)
- 2月24日: 大学院系 (分科) 会議 (臨時) (於: 理学研究科)
- 2月25日: 名古屋市東山動物園連絡会議 (於: 東山動植物園)
- 2月25日: ガーナ大学 College of Agriculture & Consumer Sciences との学术交流に関する協定書及び学术交流協定書第2条に定めるところの研究協約書調印
- 3月13日: 野生動物研究センター協議員会, 大学院系 (分科) 会議 (於: 吉田泉殿)
- 3月18日: 第9回京都市動物園連絡会議 (於: 京都市動物園)
- 3月27日: 名古屋市東山動植物園再生委員会 (於: 東山動植物園)

6. 2008 年度研究業績

執筆文章 (和文)

揚妻直樹, 揚妻-柳原芳美, 杉浦秀樹, 辻野亮, 幸田良介 (2009) 屋久島西部地域における 5 年間のシカ個体群動態. 「屋久島世界遺産地域における自然環境の動態把握と保全管理手法に関する調査報告書」(編集 財団法人日本自然保護協会): 環境省九州地方環境事務所.

伊谷原一 (2008) 新たな学問領域を目指して. 「京大広報」635: 2648 2679.

伊谷原一 (2008) 霊長類の蓄積を活かす 野生動物の保全研究. 「読売新聞」6月29日版.

井上英治, 井上-村山美穂, 西田利貞, VIGILANT Linda, 竹中修 (2008) 野生チンパンジー集団における Y-STR 多型. 「DNA 多型」16: 21 24.

幸島司郎 (2008) 氷河の生物. 「遺伝」62(1): 66 70.

幸島司郎 (2008) ヒマラヤから海中へ, 氷河から熱帯雨林へ. 「科学」78(7): 792 793.

幸島司郎 (2008) 「鯨類学」書評 海のエイリアン? まだまだ謎だらけ, イルカとクジラ 「科学」78(9): 1041 1042.

幸島司郎 (2008) 週間ママタイムズ 学びってなんだろう? わたしの寄り道生物学 1 「不思議なことを見つけてきなさい」. 「朝日小学生新聞」2008年4月5日.

幸島司郎 (2008) 週間ママタイムズ 学びってなんだろう? わたしの寄り道生物学 2 「寒くないと動けない虫」にひとめぼれ. 「朝日小学生新聞」2008年4月12日.

幸島司郎 (2008) 週間ママタイムズ 学びってなんだろう? わたしの寄り道生物学 3 雪の上で虫のあとをつけていくと.... 「朝日小学生新聞」2008年4月19日.

幸島司郎 (2008) 週間ママタイムズ 学びってなんだろう? わたしの寄り道生物学 4 虫が上流めざす理由を地道に調査. 「朝日小学生新聞」2008年4月26日.

幸島司郎 (2008) 週間ママタイムズ 学びってなんだろう? わたしの寄り道生物学 5 氷河で常識外れの虫さがし. 「朝日小学生新聞」2008年5月3日.

幸島司郎 (2008) 週間ママタイムズ 学びってなんだろう? わたしの寄り道生物学 6 氷河の世界にも生態系があった. 「朝日小学生新聞」2008年5月10日.

幸島司郎 (2008) 週間ママタイムズ 学びってなんだろう? わたしの寄り道生物学 7 アマゾン行き誘う電話に「OK!」. 「朝日小学生新聞」2008年5月17日.

幸島司郎 (2008) 週間ママタイムズ 学びってなんだろう? わたしの寄り道生物学 8 都会のインコの大群にびっくり 「朝日小学生新聞」2008年5月24日.

幸島司郎 (2008) 週間ママタイムズ 学びってなんだろう? わたしの寄り道生物学 9 満員電車の中で気づいた「白目」の謎. 「朝日小学生新聞」2008年5

月31日.

幸島司郎 (2008) 週間ママタイムズ 学びってなんだろう? わたしの寄り道生物学 10 体高20センチ, 謎の多いマメジカ. 「朝日小学生新聞」2008年6月7日.

幸島司郎 (2008) 週間ママタイムズ 学びってなんだろう? わたしの寄り道生物学 11 泳ぎっぱなしのイルカはいつ眠る? 「朝日小学生新聞」2008年6月14日.

幸島司郎 (2008) 週間ママタイムズ 学びってなんだろう? わたしの寄り道生物学 12 片目を開けたまま眠るイルカ. 「朝日小学生新聞」2008年6月21日.

幸島司郎 (2008) 週間ママタイムズ 学びってなんだろう? わたしの寄り道生物学 13 イルカの「利きひれ」みんな左? 「朝日小学生新聞」2008年6月28日.

幸島司郎 (2008) 週間ママタイムズ 学びってなんだろう? わたしの寄り道生物学 14 サイはなぜ, うんちをけるの? 「朝日小学生新聞」2008年7月5日.

幸島司郎 (2008) 週間ママタイムズ 学びってなんだろう? わたしの寄り道生物学 15 分速2センチ, ウニの超スローライフ. 「朝日小学生新聞」2008年7月12日.

幸島司郎 (2008) 週間ママタイムズ 学びってなんだろう? わたしの寄り道生物学 16 植物の「行動学」ってどんなもの? 「朝日小学生新聞」2008年7月19日.

幸島司郎 (2008) 週間ママタイムズ 学びってなんだろう? わたしの寄り道生物学 17 知りたがりやの子どもたちへ. 「朝日小学生新聞」2008年7月26日.

幸島司郎, 小林洋美, 久世濃子, 関口雄祐, 荒井一利, 酒井麻衣, 岩崎真里, 松林尚志, 喜安薫 (2008) 飼育個体の観察から何がわかるか?: サル, イルカ, マメジカ, サイの事例から. 「哺乳類科学」48: 159 167.

田代靖子, 中村美知夫, 伊藤詞子 (2008) 社会の学としての霊長類学: あとがき. 「霊長類研究」24(2): 151.

田中正之 (2008) 経験によって変わる世界の見え方. 「科学」78(6): 622 625.

中村美知夫 (2008) 夜のカンシアナ. 「マハレ珍聞」12: 5 6.

中村美知夫 (2008) 書評: 「人類が消えた世界」アラン・ワイズマン著, 鬼沢忍訳. 「共同通信の配信する地方紙」5月11日版または5月18日版.

中村美知夫, 田代靖子, 伊藤詞子 (2008) 社会の学としての霊長類学: 特集の趣旨説明. 「霊長類研究」24(2): 69 71.

西江仁徳, 中村美知夫, 伊藤詞子 (2008) 自由集会 4: 社会の学としての霊長類学 順位・権力・平等性. 「霊長類研究」24(2): 159 160.

牧拓也, 井上-村山美穂, HONG Kyung-Won, 井上英治, 前島雅美, 神作宜男, 田名部雄一, 伊藤慎一 (2008) マイクロサテライトマーカーによる柴犬 3 内種の遺伝的多様性と類縁関係. 「動物遺伝育種研究」36: 95 104.

村山美穂 (2008) 大型類人猿の遺伝的多様性. 「第 52

- 回プリマテス研究会記録」28-31.
- 村山美穂 (2008) フィールドワークとゲノム科学をつなぐ。「科学」79: 796.
- 村山美穂 (2008) 個性と普遍性。「生物科学」60(1): 19-20.
- 村山美穂 (2008) ネコの性格を、遺伝子から探る。「牛のはくぶつかん」32: 4.
- 森村成樹, 平田聡, 倉島治, 落合-大平知美 (2008) 国内飼育下チンパンジーの個体群管理と動物福祉。「霊長類研究」24:17-24.

執筆文章 (英文)

- Asai T, Hara N, Kobayashi S, Kohshima S, Fujimoto Y. (2008) Geranylated flavanones from the secretion on the surface of the immature fruits of *Paulownia tomentosa*. *Phytochemistry*, Jan 16; 18206191.
- Fujisawa M, Okumiya K, Matsubayashi K, Hamada T, Endo H, Doi Y. (2008) Factors associated with carotid atherosclerosis in community-dwelling oldest elderly aged over 80 years. *Geriatrics & Gerontology International* 8: 12–18.
- Furuichi T, Mulavwa M, Yangozene K, Yamba-Yamba M, Motema-Salo B, Idani G, Ihobe H, Hashimoto C, Tashiro Y, Mwanza N. (2008) Relationships among ranging speed, party size and composition, and fruit abundance for bonobo at Wamba. (In: *The Bonobos: Behavior, Ecology, and Conservation.*) (eds. Furuichi T, Thompson J) pp. 135–150 Springer, New York.
- Hashimoto C, Tashiro Y, Hibino E, Mulavwa M, Yangozene K, Furuichi T, Idani G, Takenaka O. (2008) Longitudinal structure of a unit-group of bonobos: Male philopatry and possible fusion of unit-groups. (In: *The Bonobos: Behavior, Ecology, and Conservation.*) (eds. Furuichi T, Thompson J) pp. 107–120 Springer, New York.
- Hiragaki T, Inoue-Murayama M, Miwa M, Fujiwara A, Mizutani M, Minvielle F, Ito S. (2008) *Recessive black* is allelic to the *yellow* plumage locus in Japanese quail and associated with a frameshift deletion in the *ASIP* gene. *Genetics* 178: 771–775.
- Hong K-W, Hayasaka I, Murayama Y, Ito S, Inoue-Murayama M. (2008) Comparative analysis of monoamine oxidase intronic polymorphisms in primates. *Gene* 418: 9–14.
- Hong K-W, Inoue-Murayama M, Nakamura A, Nagao K, Ito S. (2008) Characterization of two microsatellites in chicken monoamine oxidase A. *Animal Science Journal* 79: 641–643.
- Humle T, Snowdon CT. (2008) Socially-biased learning in the acquisition of a complex foraging task in juvenile cotton-top tamarins (*Saguinus oedipus*). *Animal Behaviour* 75: 267–277.
- Idani G. (2008) The outlook for wild animal research. *Raku-Yu* (Kyoto University Newsletter) 14: 8.
- Idani G, Mwanza N, Ihobe H, Hashimoto C, Tashiro Y, Furuichi T. (2008) Changes in the status of bonobos, their habitat, and the situation of humans at Wamba, in the Luo Scientific Reserve, Democratic Republic of the Congo. (In: *The Bonobos: Behavior, Ecology, and Conservation.*) (eds. Furuichi T, Thompson J) pp. 291–302 Springer, New York.
- Inoue-Murayama M, Hibino E, Iwatsuki H, Inoue E, Hong K-W, Nishida T, Hayasaka I, Ito S, Murayama Y. (2008) Interspecies and intraspecies variations in the serotonin transporter gene intron 3 VNTR in nonhuman primates. *Primates* 49: 139–142.
- Inoue E, Inoue-Murayama M, Vigilant L, Takenaka O, Nishida T. (2008) Relatedness in wild chimpanzees: the influence of paternity, male philopatry and demographic factors. *American Journal of Physical Anthropology* 70: 62–68.
- Ishimoto Y, Wada T, Hirosaki M, Kasahara Y, Kimura Y, Konno A, Nakatsuka M, Ishine M, Okumiya K, Fujisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K. (2009) Health-related differences between participants and nonparticipants in community-based geriatric examinations. *Journal of the American Geriatrics Society* 57: 360–362.
- Iwasaki M, Kohshima S. (2008) Activity rhythm and resting behaviors of captive killer whales (*Orcinus orca*): vocalization during the resting behaviors. *Research Perspective of COE21 “How to Build Habitable Planets?”* pp. 32.
- Kanamori T, Kohshima S. (2008) Ecology and behavior of wild orangutans in Danum Valley, Sabah, Malaysia: Seasonal change of population density and fruit supply. *Research Perspective of COE21 “How to Build Habitable Planets?”* p. 33.
- Kano F, Tanaka M, Tomonaga M. (2008) Enhanced recognition of emotional stimuli in the chimpanzee (*Pan troglodytes*). *Animal Cognition* 11: 517–524.
- Kaur T, Singh J, Tong S, Humphrey C, Clevenger D, Tan W, Szekely B, Wang Y, Li Y, Alex Muse E, Kiyono M, Hanamura S, Inoue E, Nakamura M, Huffman MA, Jiang B, Nishida T. (2008) Descriptive epidemiology of fatal respiratory outbreaks and detection of a human-related metapneumovirus in wild chimpanzees (*Pan troglodytes*) at Mahale Mountains National Park, Western Tanzania. *American Journal of Primatology* 70(8): 755–65.
- Kobayashi S, Asai T, Fujimoto Y, Kohshima S. (2008) Anti-herbivore structures of *Paulownia tomentosa*: morphology, distribution, chemical constituents, and changes during shoot and leaf development. *Annals of Botany* 101(7): 1035–1047.
- Koda H, Shimooka Y, Sugiura H. (2008) Effects of caller activity and habitat visibility on contact call rate of wild Japanese macaques (*Macaca fuscata*). *American Journal of Primatology* 70: 1055–1063.
- Kohshima S. (2008) 1. Microbial flora of glaciers in West Greenland 2. Anti-herbivore structures of a tree species (*Paulownia tomentosa*). *Research Perspective*

- of COE21 “How to Build Habitable Planets?” pp. 25–28.
- Kuze N, Sipangkui S, Malim T P, Bernard H, Ambu L N, Kohshima S. (2008) Reproductive parameters over a 37-year period of free-ranging female Borneo orangutans at Sepilok Orangutan Rehabilitation Centre. *Primates* 49(2): 126–134.
- Möbius Y, Boesch C, Koops K, Matsuzawa T, Humle T. (2008) Cultural differences in army ant predation by West African chimpanzees? A comparative study of microecological variables. *Animal Behaviour* 76(1): 37–45.
- Mulavwa M, Furuichi T, Yangozene T, Yamba-Yamba M, Motema-Salo B, Idani G, Ihobe H, Hashimoto C, Tashiro Y, Mwanza N. (2008) Seasonal changes in fruit production and party size of bonobos at Wamba. (In: *The Bonobos: Behavior, Ecology, and Conservation*.) (eds. Furuichi T, Thompson J) pp. 121–134 Springer, New York.
- Nadeau N, Minvielle F, Ito S, Inoue-Murayama M, Gourichon D, Follett S, Burke T, Mundy N. (2008) Characterization of Japanese quail *yellow* as a genomic deletion upstream of the avian homologue of the mammalian *ASIP (agouti)* gene. *Genetics* 178: 777–786.
- Nakamura M, Itoh N. (2008) Hunting with tools by Mahale chimpanzees. *Pan Africa News* 15(1): 3–6.
- Nishida T, Nakamura M. (2008) Long-term research and conservation in the Mahale Mountains, Tanzania. (In: *Science and Conservation in African Forests: The Benefits of Long-term Research*) (eds. Wrangham RW, Ross E) pp. 173–183 Cambridge University Press, Cambridge.
- Okumiya K, Ishine M, Wada T, Fujisawa M, Pomgvongsa T, Siengsoubone L, Boupba B, Matsubayashi K. (2008) Improvement in obesity and glucose tolerance in elderly people after lifestyle exchange 1 year after an oral glucose tolerance test in a rural area in LAO People’s Democratic Republic. *Journal of the American Geriatrics Society* 56: 1582–1583.
- Okumiya K, Ishine M, Wada T, Fujisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K. (2008) Lifestyle changes after oral glucose tolerance test improve glucose intolerance in community-dwelling elderly people after 1 year. *Journal of the American Geriatrics Society* 56: 767–769.
- Santibañez P, Kohshima S, Scheihing R, Jaramillo J, Shiraiwa T, Matoba S, Kanda D, Labarca P, Casassa G. (2008) Glacier mass balance interpreted from biological analysis of firn cores in the Chilean lake district. *Journal of Glaciology* 54(186): 452–461.
- Schöning C, Humle T, Möbius Y, McGrew WC. (2008) The nature of culture: technological variation in chimpanzee predation on army ants. *Journal of Human Evolution* 55(1): 48–59.
- Ueda S, Kohshima S. (2008) Face morphology of canid species: The relation between communication and gaze signal. Research Perspective of COE21 “How to Build Habitable Planets?” p. 34.
- Weiss A, Inoue-Murayama M, Hong K-W, Inoue E, Udono T, Ochiai T, Matsuzawa T, Hirata S, King JE. (2008) Assessing chimpanzee personality and subjective well-being in Japan. *American Journal of Primatology* 71: 283–292.
- Yamamoto S, Yamakoshi G, Humle T, Matsuzawa T. (2008) Invention and modification of a new tool use behavior: ant-fishing in trees by a wild chimpanzee (*Pan troglodytes verus*) at Bossou, Guinea. *American Journal of Primatology* 70(7): 699–702.
- Yoshikawa M, Ogawa H, Sakamaki T, Idani G. (2008) Population density of chimpanzees in Tanzania. *Pan Africa News* 15: 17–20.

学会等での発表・講演 (日本語)

- 伊谷原一 (2008) 京都大学野生動物研究センターの展望. 京都大学野生動物研究センター発足記念式典 (2008/05, 京都).
- 伊谷原一 (2008) 乾燥疎開林のチンパンジー. SMBC パーク栄セミナー・イベント (2008/08, 名古屋).
- 伊谷原一 (2008) 野生動物から学ぶ ボノボの社会構造と進化. 洛北高校 スーパー・サイエンス・ハイスクール特別講演 (2008/10, 京都).
- 伊谷原一 (2008) 人間性の起源. 岡山県高校家庭クラブ連盟総会基調講演 (2008/11, 岡山).
- 伊谷原一 (2008) チンパンジーから学ぶ 東山動物園の再生と動物の豊かな暮らし. 名古屋市東山動物園・新チンパンジー展示施設竣工式典記念公演 (2008/11, 名古屋).
- 伊谷原一 (2008) ワンパ住民はボノボをどのように見ているか. ヒトと動物の関係学会・関西シンポジウム「野生動物の生息地域に暮らす人々の動物観」 (2008/12, 大阪).
- 伊谷原一 (2009) 熱帯林の妖精たち: ボノボの社会. 京都市動物園定例研究会. (2009/01, 京都).
- 伊谷原一 (2009) 進化の隣人に学ぶ. 岡山県境土文化財団 (2009/01, 岡山).
- 伊谷原一, 松沢哲郎, 幸島司郎, 村山美穂, 友永雅己, 田中正之, 森村成樹, 鵜殿俊史, 山極寿一, 山崎由紀子, 上野吉一, 落合知美, 倉島治 (2008) 大学と動物園 保全の枠を超えた学術連携へ向けて. 第 24 回日本霊長類学会大会・自由集会 (2008/07, 東京).
- 井上英治, 井上-村山美穂, Linda Vigilant, 西田利貞 (2008) DNA 解析からみた野生チンパンジーにおける雌の移籍と移籍雌の血縁関係. 第 24 回日本霊長類学会大会 (2008/07, 東京).
- 井上-村山美穂 (2008) 動物の行動に関する遺伝子の探索. 日本遺伝学会第 80 回大会 (2008/09, 名古屋).
- 井上-村山美穂, 井上英治, 渡邊邦夫, 村山裕一 (2008) ニホンザルにおける行動関連の候補遺伝子の多様性解析. 第 24 回日本霊長類学会大会

- (2008/07, 東京).
- 岩崎真里, 山本友紀子, 荒井一利, 幸島司郎 (2008) 飼育下シャチ (*Orcinus orca*) の休息行動 休息行動時の音声 . 日本動物行動学会第 27 回大会 (2008/09, 金沢). SAGA11 シンポジウム (2008/11, 東京).
- 植竹淳, 長沼毅, マーティン・ヘブスガード, 神田啓史, 幸島司郎 (2008) グリーンランド氷床西部における雪氷藻類の地域分布. 日本微生物生態学会全国大会 (2008/11, 札幌).
- 植竹淳, 長沼毅, マーティン・ヘブスガード, 神田啓史, 幸島司郎 (2008) 西グリーンランドの氷河における雪氷藻類群集と雪氷面アルベド. 地球惑星科学連合大会 (2008/05, 幕張).
- 鵜殿俊史, 小林久雄, 藤澤道子, 伊谷原一 (2008) C 型肝炎ウイルス関連腎症が疑われたチンパンジーの慢性糸球体腎炎の 2 例. 第 14 回野生動物医学学会 (2008/09, 神戸)
- 江草真治, 鎌田博, 野上悦子, 森村成樹, 鵜殿俊史 (2008) 安佐動物公園におけるチンパンジーの群れ作りについて: ミキ合流の経過. 第 11 回 SAGA シンポジウム (2008/11, 日野).
- 小倉匡俊, 渋谷康, 近藤裕治, 橋川央, 田中正之, 上野吉一 (2008) 東山動植物園のゴリラ群における個体導入による行動と個体関係の変化. 第 11 回 SAGA シンポジウム (2008/11, 東京).
- 金森朝子, 久世濃子, Bernard H, Malim PT, 幸島司郎 (2008) ボルネオ島ダナムパレーに生息するオランウータンの採食行動の季節変化. 第 26 回日本霊長類学会 (2008/07, 東京).
- 金森朝子, 久世濃子, Bernard H, Malim PT, 幸島司郎 (2008) ボルネオ島ダナムパレー森林保護地域における野生オランウータンの調査 空間利用と移動様式 . 第 11 回 SAGA シンポジウム (2008/11, 東京).
- 狩野文浩, 田中正之, 友永雅己 (2008) チンパンジーにおける顔と体の情動表出の知覚: 見本あわせ課題を用いた検討. 日本霊長類学会第 24 回大会 (2008/07, 東京).
- 狩野文浩, 田中正之, 友永雅己 (2008) チンパンジーにおける顔と体の情動表出の知覚: 見本あわせ課題を用いた検討. 日本動物心理学会第 68 回大会 (2008/09, 水戸).
- 倉島治, 落合-大平知美, 村山美穂, 松沢哲郎, 長谷川寿一, 吉川泰弘 (2008) 大型類人猿情報ネットワーク. 日本人類遺伝学会第 53 回大会 (2008/09, 横浜).
- 今野晃嗣, 早坂正美, 村山美穂, 友永雅己, 仁平義明 (2008) ニホンザルの「性格」展示 動物園来園者の行動変化 . 第 11 回 SAGA シンポジウム (2008/11, 東京).
- 幸島司郎 (2008) 動物園・水族館での野生動物研究. 京都市動物園定例研究会 (2008/04, 京都).
- 幸島司郎 (2008) ヒマラヤから海中へ, 氷河から熱帯雨林へ: 私の雪氷生物学と野生動物研究. 京都大学野生動物研究センター発足記念式典 (2008/05, 京都).
- 幸島司郎 (2008) 動物園・水族館での野生動物研究. 東山動物園ミニワークショップ (2008/05, 名古屋).
- 幸島司郎 (2008) 野生動物から学ぶ: 雪虫からイルカまで. 洛北高校 スーパー・サイエンス・ハイスクール特別講演 (2008/12, 京都).
- 幸島司郎 (2009) 野生動物に学ぶ 雪虫からイルカまで . 京都大学附置研究所・センターシンポジウム (2009/03, 名古屋).
- 佐久間尚子, 伊集院睦雄, 伏見貴夫, 辰巳格, 田中正之, 天野成昭, 近藤公久 (2008) 単語心像性評価における表記の影響. 日本心理学会第 72 回大会 (2008/09, 札幌).
- 下岡ゆき子, 杉浦秀樹, Link Andres, DiFiore Anthony, Ramirez Monica A (2008) ニホンザルとクモザルにおける群れ内の個体の空間分布の比較. 第 24 回日本霊長類学会大会 (2008/07, 東京).
- 杉浦秀樹. (2008) ニホンザルの音声コミュニケーション. 日本哺乳類学会 企画シンポジウム「音声コミュニケーションからみる動物の社会」(2008/09, 山口).
- 杉浦秀樹, 下岡ゆき子, 辻大和 (2008) ニホンザルの群れの大きさ. 第 24 回日本霊長類学会大会 (2008/07, 東京).
- 杉浦秀樹, 早川祥子 (2009) 屋久島におけるニホンザルの群れの消滅. 第 56 回日本生態学会大会 (2009/03, 盛岡).
- 田中正之 (2008) 子どもの育ち方, 学び方 人間とチンパンジーを比べてみると . ことばのための発達心理学連続研修会 (2008/07, 京都).
- 田中正之 (2008) 京都市美術館ワークショップ「動物の色を探る」(講師) (2008/07, 京都).
- 田中正之 (2008) 飼育下チンパンジーにおける食物カテゴリーの認識: ヒトの典型性尺度を用いた比較. 日本霊長類学会第 24 回大会 (2008/07, 東京).
- 田中正之 (2008) 幼児期の成長発達 チンパンジー研究からのヒント . 障害児等療育支援事業療育支援研修会 (2008/09, 半田).
- 田中正之 (2008) チンパンジーにおける食物を表す記号の学習 アイコンとシンボルの比較 . 日本心理学会第 72 回大会 (2008/09, 札幌).
- 田中正之 (2008) 京都府立洛北高校 SSH2 年生校外学習 (講師). (2008/10, 京都).
- 田中正之 (2008) アフリカのおはなし タンザニアの野生動物たち . 京都市動物園講演会 (講師) (2008/11, 京都).
- 田中正之 (2008) 未来の動物園を語るラウンド・テーブル (話題提供). 第 11 回 SAGA シンポジウム (2008/11, 東京).
- 田中正之 (2008) 京都府立洛北高校 SSH1 年生校外実習 (講師). (2008/11, 京都).
- 田中正之 (2009) 同志社女子中学 1 年生動物園実習 (講師). (2009/03, 京都).
- 田中正之, 狩野文浩 (2008) チンパンジーにおけるアイコンとシンボルの習得. 日本動物心理学会第 68 回大会 (2008/09, 水戸).
- 田中正之, 松永雅之, 長尾充徳 (2008) 京都市動物園におけるニシゴリラの行動調査. 第 11 回 SAGA シンポジウム (2008/11, 東京).
- 中川尚史, 杉浦秀樹, 松原幹, 早川祥子, 藤田志歩,

鈴木滋, 下岡ゆき子, 西川真理 (2008) ニホンザルにおける交尾パタンの地域変異. 日本哺乳類学会 2008 年度大会 (2008/09, 山口).

中村美知夫 (2008) チンパンジーは本当に暴力的か? 競争原理と霊長類の社会. 日本人類学会・進化人類学分科会第 21 回シンポジウム「霊長類の暴力とその解決法の進化」(2008/06, 京都).

中村美知夫 (2008) 趣旨説明. 第 24 回日本霊長類学会大会 自由集会「社会の学としての霊長類学 順位・権力・平等性」(2008/07, 東京).

中村美知夫 (2008) チンパンジーの社会行動の文化的変異. 第 24 回日本霊長類学会大会 自由集会「ニホンザルにおける社会行動の文化的変異: 情報収集のためのネットワーク作り」(2008/07, 東京).

中村美知夫 (2008) チンパンジーのメスの社会性. 人類社会進化論の再構築 霊長類と人間社会の構造論的架橋. 2008 年度第 2 回共同研究会 (2008/10, 神戸).

中村美知夫 (2009) チンパンジーにおける複数個体間の相互行為. コミュニケーションの自然誌研究会 (2009/02, 京都).

長尾充徳, 松永雅之, 田中正之 (2008) 単独生活者エゾヒグマの複数飼育による狭い獣舎での採食について. 第 11 回 SAGA シンポジウム (2008/11, 東京).

長野邦寿, 森裕介, 藤澤道子, 野上悦子, 森村成樹, 寺本研, 鶴殿俊史, 小林久雄, 伊谷原一 (2008) チンパンジー雄グループの再編成. 第 11 回 SAGA シンポジウム (2008/11, 日野).

水口清, 森裕介, 藤澤道子, 野上悦子, 森村成樹, 鶴殿俊史, 小林久雄, 伊谷原一 (2008) チンパンジー雄グループの再編成. 第 11 回 SAGA シンポジウム (2008/11, 日野).

宮寄有紀, 酒井麻衣, 小木万布, 高縄奈々, 幸島司郎 (2008) 野生ミナミハンドウイルカの社会行動 一緒に泳ぐ行動について. 日本動物行動学会第 27 回大会 (2008/09, 金沢).

村井千寿子, 小杉大輔, 田中正之 (2008) チンパンジーおよびニホンザルにおける物理的支持事象の認識. 日本心理学会第 72 回大会 (2008/09, 札幌).

森村成樹 (2008) チンパンジー・サンクチュアリ・宇土における動物福祉研究 チンパンジーの群れ作りの試み. 動物公園飼育研究会 (2008/07, 広島).

森村成樹 (2008) 行動の評価方法 電子機器を用いた分析システムの紹介. 展示動物の行動調査に関する体験型研修会 (2008/11, 名古屋).

山根明弘, 庄武孝義, 森明雄, 杉浦秀樹, Boug Ahmed, 岩本俊孝 (2008) アラビア半島のマントヒヒ集団における, Y 染色体上の STR 遺伝子多型について. 日本哺乳類学会 2008 年度大会 (2008/09, 山口).

山本真也, タチアナ・ハムル, 田中正之 (2008) チンパンジーの道具渡し場面における他者の要求の理解. 日本霊長類学会第 24 回大会 (2008/07, 東京).

山本真也, タチアナ・ハムル, 田中正之 (2008) チンパンジー 2 個体間における利他的な道具の受渡し. 日本動物心理学会第 68 回大会. (2008/09, 水戸).

山本真也, タチアナ・ハムル, 田中正之 (2008) チンパンジーの利他行動: 相手の要求に応じた道具の受渡

し. 第 11 回 SAGA シンポジウム (2008/11, 東京).

山本真也, 田中正之 (2008) チンパンジー 2 個体間における利他的な道具の受渡し. 日本心理学会第 72 回大会 (2008/09, 札幌).

山本友紀子, 赤松友成, 浦環, 杉松治美, 小島淳一, Bahl R, Behera S, 幸島司郎 (2008) 音響的手法によるガンジスカワイルカの行動解析. 日本動物行動学会第 27 回大会 (2008/09, 金沢).

学会等での発表・講演 (英語)

Ikeda T, Yoshi S, Kikukawa M, Tamura Y, Takagi I, Kohshima S. (2008) A day in the life: Studies of ring-necked parakeet naturalized in Tokyo. The International Symposium on Comparative Cognitive Science 2008 (2008/05, Kyoto).

Ikeda T, Kohshima S. (2008) Why are the neon tetras so vivid?: The “Mirror-image decoy” hypothesis. The International Symposium on Comparative Cognitive Science 2008 (2008/05, Kyoto).

Inoue E, Inoue-Murayama M. (2008) DNA analysis in wild animals: Paternity and relatedness in primates. The International Symposium on Comparative Cognitive Science (2008/05, Kyoto).

Inoue E, Inoue-Murayama M, Vigilant L, Takenaka O, Nishida T. (2008) Y-STR polymorphism in wild chimpanzees at Mahale Mountains National Park. The International Primatological Society XXII Congress (2008/08, Edinburgh).

Inoue-Murayama M. (2008) Genetic polymorphism as a background of animal behavior. The 51st Annual Meeting of the Japanese Society for Neurochemistry (2008/09, Toyama).

Inoue-Murayama M. (2008) Genetic basis of personality: examples of dogs and primates HOPE Symposium (2008/11, Tokyo).

Inoue-Murayama M, Inoue E, Hong K-W, Nishida T, Ito S, Murayama Y. (2008) Interspecies and Intraspecies Variations in the Serotonin Transporter Gene Intron 3 VNTR in Nonhuman Primates. The International Primatological Society XXII Congress (2008/08, Edinburgh).

Itoh N, Nakamura M, Ihobe H, Nishida T. (2009) Long-term changes in the social and natural environments surrounding the chimpanzees of the Mahale Mts. National Park. Conference on Long Term Changes in Protected Areas of the Albertine Rift (2009/01, Kampala).

Kanamori T, Kuze N, Malim TP, Bernard H, Kohshima S. (2008) Seasonal change in foraging behavior of Borneo orangutan in Danum Valley. The International Symposium on Comparative Cognitive Science 2008 (2008/05, Kyoto).

Kanamori T, Kuze N, Malim TP, Bernard H, Kohshima S. (2009) Feeding ecology of orangutan in Danum Valley. Cooperation Research Symposium 2008: Field

- Research of Primates in South-eastern-Asia (2009/02, Inuyama).
- Kano F, Tanaka M, Tomonaga M. (2008) The perception of body and facial expression in chimpanzees (*Pan troglodytes*): An experiment using matching to sample. International symposium of Comparative Cognitive Science 2008 “Primate origins of human mind” (2008/05, Kyoto).
- Kayang BB, Inoue E, Abe H, Ito S, Inoue-Murayama M. (2008) Melanocyte protein 17 precursor gene (*PMEL17*) mutation and white plumage in helmeted guinea fowl. 110th Congress of Japanese Society of Animal Science (2009/03, Fujisawa).
- Kayang BB, Inoue E, Maki T, Ito S, Kansaku N, Tanabe Y, Inoue-Murayama M. (2008) Genetic analyses of Ghanaian dogs: diversity and relationships with other breeds. 17th Congress of Japanese Society for DNA Polymorphism Research (2008/11, Tokyo).
- Kayang BB, Inoue E, Osei-Amponsah R, Naazie A, Ito S, Inoue-Murayama M. (2008) Phenotypic Characterization of Local Chicken Ecotypes of the Forest and Savannah zones of Ghana. The International Symposium on Comparative Cognitive Science (2008/05, Kyoto).
- Kayang BB, Inoue E, Osei-Amponsah R, Naazie A, Kinoshita K, Mizutani M, Nirasawa K, Nakamura A, Nagao K, Hayakawa H, Fujiwara K, Ito S, Inoue-Murayama M. (2008) Genetic analyses of Ghanaian chicken ecotypes: diversity and relationships with other breeds. 31th International Conference on Animal Genetics (2008/07, Amsterdam).
- Kiyasu K, Kohshima S. (2008) Behavior of the black and white rhinoceros in Japanese zoos. The International Symposium on Comparative Cognitive Science 2008 (2008/05, Kyoto).
- Kohshima S. (2008) Resting behaviors of dolphins. The 3rd HOPE International Symposium (2008/11, Tokyo).
- Kohshima S, Uetake J, Segawa T, Naganuma T, Hebsgaard M, Kanda K. (2008) Microbial flora of glaciers in West Greenland. XXXI Symposium on Polar Biology (2008/12, Tokyo).
- Kuze N, Russon A, Sipangkui S, Malim T, Ambu L, Bernard H, Kohshima S. (2008) Reproductive parameters over a 37-year period of free-ranging female Borneo orangutans (*Pongo pygmaeus morio*) at Sepilok Orangutan Rehabilitation Center. 22nd Congress of the International Primatological Society (2008/08, Edinburgh).
- Morimura M. (2008) Welfare issues in Chimpanzee Sanctuary Uto. International Conference: On Human Nature (2008/05, Kyoto).
- Nakamura M. (2008) Behavioral differences between neighboring groups of chimpanzees at Mahale. On Human Nature: Symposium of Comparative Cognitive Science. (2008/05, Kyoto).
- Nakamura M, Nishida T. (2008) Developmental process of grooming hand-clasp by chimpanzees of the Mahale Mountains, Tanzania. The XXII Congress of the International Primatological Society. (2008/08, Edinburgh).
- Segawa T, Abe T, Motoyama H, Imura S, Kohshima S, Kanda H. (2008) Microbial analysis of subglacial samples drilled at Dome Fuji, Antarctica. XXX Scientific committee on Antarctic Research (SCAR) Science Week 2008 (2008/07, Russia).
- Sugiura H, Shimooka Y, Tsuji Y. (2008) Variation in spatial spread and behavioral correlates in a group of Japanese macaques. Symposium on Comparative Cognitive Science 2008 “Primate Origins of Human Mind” (2008/05, Kyoto).
- Tanaka M. (2008) Categorization of photographs of food in captive chimpanzees (*Pan troglodytes*): assessment on the basis of typicality by humans. International symposium of Comparative Cognitive Science 2008: Primate origins of human mind (2008/05, Kyoto).
- Tanaka M. (2008) Experimental studies on reciprocal cooperation in chimpanzees. The 72th Annual Convention of the Japanese Psychological Association: Symposium “Reciprocity, cooperation and fairness: what is unique to human and why” (2008/09, Sapporo).
- Ueda S, Kohshima S. (2008) Face morphology of canid species: Why is wolf’s gaze so impressive for us? The International Symposium on Comparative Cognitive Science 2008 (2008/05, Kyoto).
- Uetake J, Naganuma T, Hebsgaard MB, Kanda H, Kohshima S. (2008) Snow algal communities and albedo on the glaciers in West Greenland. International Conference on Polar and Alpine Microbiology (2008/05, Banff).
- Uetake J, Naganuma T, Hebsgaard MB, Kanda H, Kohshima S. (2008) Snow algal communities on the glaciers in West Greenland. First International Symposium on the Arctic Research (2008/10, Tokyo).
- Yoshida Y, Morisaka T, Sakai M, Iwaki M, Wakabayashi I, Seko A, Kasamatsu M, Akamatsu T, Kohshima S. (2008) Pulse sounds of captive Commerson’s dolphins (*Cephalorhynchus commersonii*). International Conference on Acoustic Communication by Animals (2008/08, Oregon).

制作した映像・番組

- 中村美穂 (2008) いろんな生き物やってます。野生動物研究センター紹介ビデオ (野生動物研究センター設立記念写真展にて上映)。
- 中村美穂 (2008) 野生のちから。WRC イメージビデオ (野生動物研究センター発足記念式典にて上映)。
- 中村美穂 (2008) 海外向けテレビ番組 Chimps: Kalunde the Kingmaker (英語版): (NHK / 国際メディアコーポレーションより世界配信中)。

受賞

中村美穂 (2008) アフリカ 森の政権争い 長老チンパンジー大活躍. NHK スペシャル. 第 17 回地球環境映像祭にてアースビジョン賞を受賞.

7. 新聞・雑誌等に掲載された記事

地球異変 南極迷彩 気温上昇, 藻が氷河覆う.「朝日新聞」, 2008 年 4 月 6 日 (幸島司郎).

地球変異 南極融氷 加速の兆しか.「朝日新聞」, 2008 年 4 月 6 日 (幸島司郎).

自然学ぶ新 動物園に 京都市と京大が連携協定「京都新聞」, 2008 年 4 月 19 日 (WRC).

チンパンジー研究でタッグ 京大と京都市動物園 協定締結.「産経新聞」, 2008 年 4 月 19 日 (WRC).

寒蛙と六鼠 (かんがえるとむちゅう) 幸島のサルから見えるもの.「産経新聞」, 2008 年 4 月 29 日 (鈴木崇文).

京都市動物園が京大と連携して更に進化!「きょうと市民しんぶん」, 2008 年 5 月 1 日 (WRC).

探検大学の伝統 野生動物研究センター発足.「京大学生新聞」, 2008 年 5 月 5 日 (WRC)

憂楽帳 半球睡眠.「毎日新聞」, 夕刊 2008 年 5 月 17 日 (幸島司郎).

ののちゃんの自由研究 白い世界 宿る生命「朝日新聞」, 2008 年 5 月 18 日 (幸島司郎)

4 月からセンター長に就任 伊谷原一教授 父ではできなかった仕事.「京大学生新聞」, 2008 年 5 月 20 日 (伊谷原一).

のいち動物公園繁殖計画 チンパンジー計 6 頭交換.「高知新聞」, 2008 年 5 月 27 日 (CSU).

チンパンジー:繁殖へ 6 頭“愛”の交流 のいち動物公園, 熊本の飼育施設と.「毎日新聞」, 2008 年 5 月 28 日 地方版 (CSU).

ズーッと勉強でござる.「読売新聞」, 2008 年 5 月 28 日 夕刊 (CSU).

繁殖大作戦 のいち動物公園が挑戦.「朝日新聞」, 2008 年 5 月 30 日 (CSU).

野生動物の未来探る 京大研究センター発足式典.「京都新聞」, 2008 年 5 月 31 日 (WRC).

のいち動物公園チンパンジー 2 世期待大トレード.「読売新聞」, 高知版 2008 年 6 月 6 日 (CSU).

ひと 伊谷原一さん 野生動物の保全を研究.「毎日新聞」, 2008 年 6 月 23 日 (伊谷原一).

論点 伊谷原一 野生動物の保全研究 霊長類学の蓄積を活かす「読売新聞」, 2008 年 6 月 29 日 (伊谷原一).

夏休み特集 京都市動物園 動物園で学術研究! ? 画期的な取り組み進行中.「京都理科市民会議 21 ニュース」, 2008 年 6 月 (田中正之).

この人に聞きたい 幸島司郎さん 東山動植物園再生の取り組み 野生動物の観点で助言.「朝日新聞」愛知総合版 2008 年 7 月 9 日 (幸島司郎).

ゴリラ・南極... 京大で野外研究展.「朝日新聞」, 2008 年 8 月 17 日 (WRC).

研究で協力 京都大学と京都市動物園.「朝日小学生新聞」, 2008 年 8 月 21 日 (田中正之).

京大, 探検の歴史を展示「アフリカ・南極・ヒマラヤ」.「朝日小学生新聞」, 2008 年 8 月 23 日 (WRC).

はい応答室 動物の知性を探る京大の研究.「京都新聞」, 2008 年 9 月 7 日 (田中正之).

“ず〜”と動物と一緒に 京都市動物園・京大連携「朝日新聞」, 京都版 2008 年 9 月 18 日 (田中正之).

生き生き動物写真 市動物園と京大連携.「朝日新聞」, 京都版 2008 年 9 月 18 日 (田中正之).

チンパンジーおめでた のいち動物公園で初.「高知新聞」, 2008 年 10 月 4 日 (CSU).

チンパンジーおめでた.「読売新聞」, 2008 年 10 月 8 日 (CSU).

ゴリラの「婚活」サポート 京大教授ら性格診断.「朝日新聞」, 夕刊 2008 年 10 月 14 日 (村山美穂).

京の人 田中正之さん 京都市動物園, チンパンジーの展示は? 知性発揮する場を与えたい.「朝日新聞」, 第 2 京都版 2008 年 10 月 15 日 (田中正之).

マン드릴ル 意外と賢い 京大野生動物研究センター知能実験で好成绩.「毎日新聞」, 夕刊 2008 年 10 月 25 日 (田中正之).

京都うろつきまわりんぐ 京都市動物園.「らいふすてーじ」, 2008 年 10 月 (田中正之).

アフリカの動物生態知って 京大准教授が視察体験講演.「京都新聞」, 2008 年 11 月 4 日 (田中正之).

マン드릴ルも「1」「2」識別.「朝日新聞」, 夕刊 2008 年 11 月 15 日 (田中正之).

青鉛筆 京都市動物園の雄のマン드릴ル「マンマル」.「朝日新聞」, 2008 年 11 月 16 日 (田中正之).

野生動物研究センター・センター長 伊谷原一教授インタビュー 教科書なき野生動物研究への招待.「京都大学新聞」, 2008 年 11 月 16 日 (伊谷原一).

遊歩道 動物のことは 1 イルカの方言 騒音や静かさに対応.「岩手日報」, 夕刊 2008 年 11 月 17 日 (森阪匡通).

マン드릴ル シロテナガザル 市動物園で知性実験 多様な霊長類に着目「京都新聞」, 2008 年 11 月 24 日 (田中正之).

生命科学 特別講義「野生動物から学ぶ ポリボの社会構造と進化」報告.「洛北 SSH だより」, 8 号 2008 年 11 月 27 日 (伊谷原一).

遊歩道 動物のことは 共同通信社配信「熊本日日新聞」, 2008 年 12 月 10 日など (杉浦秀樹).

とべ動物園 4 匹目チンパンジー マリーの婿ゴロウです.「愛媛新聞」, 2008 年 12 月 18 日 (CSU).

気温 1 度上昇で絶滅生物 10%増 温暖化対策に自然保護提言.「京都新聞」, 2009 年 1 月 25 日 (幸島司郎).
平均気温 1 度上昇 そのとき絶滅生物 10%増.「京都新聞」, 2009 年 1 月 26 日 (幸島司郎)

地球変異 南極変色 気温上昇 氷河覆う藻【朝日新聞の宣伝】.「朝日新聞」(幸島司郎).

始まりへの旅 サル学 宮崎・幸島から始まった.「読売新聞」, 2009 年 1 月 27 日 (冠地富士男・鈴木崇文).

好きなこと我慢しない 知のあけぼの(1) 京大附置研・センターシンポを前に.「読売新聞」, 京都版 2009 年 2 月 21 日 (幸島司郎)

類人猿舎屋外運動場に丸太タワー市動物園で市と京大が連携協定。「京都新聞」2009年3月9日(CSU).

8. 附属観察所利用実績

幸島観察所

松本英登(文部科学省), 長辻象平(産経新聞), 高橋真理子(朝日新聞), 山崎和雄(日刊工業新聞), 青野由利(毎日新聞), 黒澤宏, 櫻間宣行(JSTイノベーションサテライト宮崎). 見学および取材. 2008年4月21日.
MRTラジオ. 「スクーパー」取材. 2008年4月30日.
松岡絵里子(京大霊長研). ニホンザルの調査. 2008年5月22日.
テレビ西日本. 「ぐるぐるアース」取材. 2008年6月26日.
渡辺邦夫, 杉浦秀樹, 半谷吾郎ほか(京大霊長研). 大学院生実習. 2008年7月14日~19日.
松岡絵里子(京大霊長研). ニホンザルのDNA採取. 2008年7月23日.
読売新聞. 取材. 2008年8月1日.
南那珂理科教員. 30名程度の小中学生の親子を対象とした自然観察会. 2008年8月3日.
栗田博之(大分市職員). ニホンザルの体長測定. 2008年8月3~13日.
読売新聞. 写真撮影: 山の木の实が多いために影響について. 2008年8月4日.
原澤牧子(京大霊長研). ニホンザルの調査. 2008年8月4日.
全国理科教員(同行: 岩本俊孝). 生物教育会全国大会エクスカージョン. 2008年8月7日.
CAL(TBS系列). 取材撮影: 宮崎県の検定番組作成のため. 2008年8月11日, 27日.
読売新聞. 取材, 写真撮影: 山の木の实が多いために影響について. 2008年9月1日, 3日.
九州アサヒ放送. 「アサデス」取材. 2008年9月2日.
岐阜大学ポケットゼミ生4名(引率: 松沢哲郎). 学生実習. 2008年9月15日.
山口大学農学部学生(引率: 藤田志歩). 学生実習. 2008年9月24日.
安富舞(神奈川県職員), 坂口裕佳(信州大). 見学および資料の閲覧. 2008年11月9日.
Grundmann E(フリーランス記者), Ruoso C(カメラマン). 撮影・取材. 2008年11月14日.
グドール J, トビー(AP通信, フリーカメラマン)(松沢哲郎, 伊谷原一 同行). 幸島見学, 取材, 撮影. 2008年11月30日.
岩本俊孝(宮崎大). 子供見学会, 自然観察会. 2008年12月6日.
矢澤寛茂, 枘田直也(読売新聞). 取材, 撮影. 2008年12月15日.
鈴木千帆(自治医科大). ニホンザル生態観察. 2009年2月9日.
中島麻衣, 櫻庭陽子, 鈴木直美, 市野悦子, 杉本美貴, 夏目尊好, 野一色香織, 原ともみ, 藤森唯, 丸川昌輝, 水野佳緒里(岐阜大)(引率: 松沢哲郎, 伊谷原

一). 幸島での野生ニホンザル観察: とくに夏に記録した母子(0歳児)についてビデオ記録する. 2009年3月3日~8日.

屋久島観察所

松井淳, 中北ねり, 杉田洗平(奈良教育大). ヤマモモ果実の調査. 2008年4月5日~9日
MacIntosh JA(京大霊長研). Parasite Ecology & Behavior of macaques. 2008年4月7日~5月25日.
相場慎一郎, 坂本明子(鹿児島大). 屋久島の森林における分解速度. 2008年4月19日~22日.
鈴木真理子(京大霊長研). ニホンザルにおける集団移動に関する調査. 2008年4月25日~7月4日.
西川真理(京大理). ヤクシマザル(E群)の遊動に関する調査. 2008年4月23日~6月24日.
相場慎一郎, 岩崎隆一, 柏倉まや(鹿児島大). 森林動態調査. 2008年4月26日~30日
Hernandez DA(京大霊長研). Ecology of parasites infecting Umi troop. 2008年5月4日~31日.
相場慎一郎, 野邊麻梨子(鹿児島大). 卒業論文研究. 2008年5月18日~23日.
揚妻直樹(北海道大), 揚妻芳美. ヤクシカ生息密度の全島調査およびヤクシカの行動観察. 2008年5月15日~24日.
幸田良介(京大生態セ). ヤクシカ生息密度調査, 植生調査. 2008年5月15日~6月23日.
辻野亮(総合地球環境学研). シカ柵内外の実生調査とシカ生息密度調査. 2008年5月15日~22日.
藤田真梨子(神戸大). 西部林道におけるヤマモモの結実調査. 2008年5月24日~6月7日.
寺川真理(広島大), 梶田学, 梶田あまね(日本鳥類標識協会). ヤマモモの散布様式の調査. 2008年5月27日~6月10日.
河合潮, 城野哲平(京大理). 屋久島における野外調査の拠点として. 2008年6月3日~7月3日.
MacIntosh JA(京大霊研). Parasite Ecology and health maintenance in Yaku-saru. 2008年7月6日~8月30日.
相場慎一郎, 坂本明子(鹿児島大). 森林調査. 2008年6月20日~23日.
Hernandez DA(京大霊長研), Boze B(Colorado State Univ, USA). Ecology of parasites infecting Umi group. Ecology of parasites infecting dung beetles in Umi group home range. 2008年6月26日~7月26日.
菅谷和紗(神戸学院大). ニホンザルのアカンボウを対象にした毛づくろいの音声使用の調査(共同利用研究). 2008年4月1日~7月2日, 7月7日~8月8日, 8月19日~9月25日.
幸田良介(京大生態セ). 植生調査及びヤクシカ生息密度調査. 2008年7月1日~25日.
揚妻直樹(北海道大), 揚妻芳美(苫小牧市博物館友の会). サルおよびシカの個体群調査および行動調査. 2008年7月29日~9月10日.
鈴木真理子(京大霊長研), 山内綾乃(岐阜大). ヤクシマザルの移動となき交わしに関する研究のための

- 調査 2008年8月25日～9月8日。
- 日吉真夫 (神戸大). 西部林道付近におけるヤマモモ及びヤマモモキバガのフェノロジー調査. 2008年8月28日～9月11日。
- 杉浦秀樹 (京大WRC), 川添達朗 (京大理), 関健太郎 (帝京科学大), 宇野壮春 (宮城野生動物保護管理セ), 清水桃子, 藤田志歩, 五島, 久保田 (山口大). ヤクシマザルおよびヤクシカの頭数調査. 2008年7月20日～8月18日。
- Grodwohl JB (Ecole Normale Supérieure). Primatology: Macaque Society. 2008年7月7日～14日。
- 谷口晴香 (京大理). ヤクシマザルの個体追跡法習得のための予備調査. 2008年9月1日～8日。
- 松原幹 (京大霊長研). gCOE 実習前の予備観察 (対象: 半山地区のヤクシマザル). 2008年9月5日～8日。
- 半谷吾郎 (京大霊長研). ニホンザル調査. 2008年8月4日～9日。
- 河合潮 (京大理). 屋久島における爬虫類調査. 2008年8月26日～9月1日。
- 原澤牧子 (京大霊長研). ニホンザルの行動観察 (博士論文). 2008年8月20日～9月30日。
- 藤田真梨子 (神戸大), 山本浩大 (奈良教育大). 西部林道におけるヤマモモおよびヤマモモキバガのフェノロジー調査. 2008年9月1日～5日。
- 鈴木滋 (龍谷大). 屋久島西部地域における野生ニホンザル調査. 2008年9月2日～4日。
- Jacobs TA (京大霊長研) Monkey fecal samples processing. 2008年9月8日～10月5日。
- 寺田千里 (北海道大). ヤクシカ頭骨および肢骨の収集. 2008年9月25日～27日。
- MacIntosh JA (京大霊長研). Parasite ecology and health maintenance in *M. fuscata yakui*. 2008年10月6日～11月27日。
- 鈴木真理子 (京大霊長研). ヤクシマザルの行動調査. 2008年9月27日～10月10日。
- 幸田良介 (京大生態セ), 辻野亮 (総合地球環境学研), 杉田洸平, 堀井麻美 (奈良教育大). 屋久島低地林の植生調査. 2008年10月7日～11月10日。
- 早石周平 (琉球大). ヤクシマザルの遺伝学的調査, および保全のための情報収集. 2008年10月15日～29日。
- 揚妻直樹 (北海道大), 揚妻芳美 (苫小牧市博物館・友の会). 照葉樹林に生息するヤクシマザルとヤクシカの種間関係. 2008年10月28日～11月9日。
- 野間直彦 (滋賀県立大). 生態調査 (果実数). 2008年10月22日～26日。
- 藤田真梨子, 北嶋亜似子 (神戸大). 西部林道付近におけるヤマモモ及びヤマモモキバガのフェノロジー調査. 2008年10月28日～11月10日。
- 野間直彦 (滋賀県立大). 生態調査 (果実と鳥). 2008年11月5日～7日。
- 相場慎一郎, 坂本明子 (鹿児島大). 植生調査. 2008年11月13日～14日。
- Grundmann E, Cyril R (Natural History Museum). Education: Sensibilisation of the french people through an illustrated article to the role of Japan research in the history of primatology studies. 2008年11月17日～12月9日。
- 野間直彦 (滋賀県立大). 果実数と冬鳥の関係. 2008年11月26日～27日。
- 幸田良介 (京大生態セ). 植生調査およびフン・カメラによる哺乳類調査. 2008年12月2日～9日。
- 早川祥子 (京大霊長研). 対象群の個体識別および糞・尿採集. 2008年12月27日～1月1日。
- 原澤牧子 (京大霊長研). 個体追跡法によるヤクシマザル双生児の成長観察. 2009年1月8日～2月1日。
- 西川真理, 持田浩治 (京大理). ヤクシマザルE群の採食行動および採食樹の質的評価の調査. 2009年1月15日～2月16日。
- 市川彩代子 (奈良教育大). 卒業研究: ヤクザルとヤクシカの採食関係について研究・現地視察. 2009年1月19日～24日。
- 野間直彦 (滋賀県立大). この冬の果実と鳥類・サルとの関係を知るため, 果実数の計数, ラインセンサスを行う. 2009年1月6日～8日。
- 野間直彦 (滋賀県立大). 果実計数, ロードサイドセンサス等. 2009年1月20日～22日。
- MacIntosh JA (京大霊長研). Parasite ecology and health maintenance. 2009年1月11日～2月26日。
- 辻野亮 (総合地球環境学研). シカ柵内外での実生の生残調査, 鳥類のルートセンサス調査. 2009年2月9日～16日。

9. 野生動物研究センターの設立経緯

松沢哲郎

(野生動物研究センター設置準備委員会委員長, 京都大学霊長類研究所, 所長)

2008年4月1日, 京都大学に野生動物研究センター (Wildlife Research Center) が発足した。発足して1年の節目にあたり, その成り立ちについて解説する。

尾池総長の問いかけ

霊長類研究所の所長になってまもない2006年の夏休み前, 時計台の2階の懇親会場で, 尾池和夫総長から話しかけられた。

「大学には植物園も水族館もあるのに, なぜ動物園はないのですか」

答えに窮し, 「しばらく考える時間をください」と申し上げた。

京都大学植物園は京都の北白川にある。また, 京都大学水族館が和歌山県の白浜町にある。京都大学総合博物館もある。しかし, 京都大学動物園はない。そもそも, 大学に動物園があるとは寡聞にして知らない。

ひと夏考えた。ようやく考えがまとまって, 11月21日に総長にお返事を差し上げた。大学が研究対象として野生動物をもっと取り上げ, 動物園と連携して, 京都大学らしい社会貢献をするべきだというのが主旨である。

京都大学の動物学教室において, 現在の最も重要な研究対象はホヤである。脊索動物から脊椎動物への進化をゲノムの視点から解析するうえできわめて重要だ。また, 50年間1200世代以上にわたって暗黒条件下で継代飼育しているショウジョウバエの遺伝子変異と行動に関する研究も貴重だ。ヤドカリについての優れた研究もある。しかし, 動物園にいるゾウやキリンやカバの研究は誰もしていない。京大の培ってきたフィールドワークの伝統を活かし, 最新のライフサイエンスの手法を加えて, 野生動物の研究を通じたユニークな社会貢献ができると考えた。

野生ゴリラ研究の山極寿一さん, フィールド医学を提唱している松林公蔵さんらを同志として, 計画の立案を進めた。明けて2007年3月14日, 「京都大学野生動物研究センター (Wildlife Research Center)」という名称が尾池総長から示唆された。その後ほぼ1年間にわたり学内のさまざまなレベルでの審議を経て発足に到った。

野生動物研究センター憲章

2008年2月5日, 最後の野生動物研究センター設置準備委員会で「京都大学野生動物研究センター憲章」が制定された。いわば憲法のようなものであり, 野生動物研究センターの使命を定めたものである (p. 2を参照)。

新センターの拠点は, 京都大学本部のある吉田地区にした。そこに教職員の大半がいる。幸島観察所と屋久島観察所という2つのフィールド研究施設を霊長類研究所から委譲した。1948年に今西錦司らが幸島で野生サルの調査を始めた。その霊長類学の発祥の地をあえて切り出した。天然記念物のサルがいる幸島, 世界自然遺産でサルとシカと多様な動植物のある屋久島, その島の全体をさまざまな研究に活用することが, サルの研究の発展にもつながると考えたからである。

1998年からおこなってきたSAGA (アフリカ・アジアに生きる大型類人猿を支援する集い) の努力が実って, 2006年秋に, チンパンジーの医学感染実験が廃絶された。その結果77人のチンパンジーが残った。チンパンジー・サンクチュアリ・宇土 (CSU) という保護施設ができ, 霊長類研究所が2007年8月から寄附講座としてその運営をしてきた。このサンクチュアリ運営も野生動物研究センターに委譲した。チンパンジーはそもそも野生動物であり絶滅危惧種である。国内にすむ合計348人の将来というさらに大きな展望の中で, 動物園と連携しつつ課題を解決しようと考えたからである。

こうした国内研究拠点に加えて、アフリカに6つ、ボルネオに1つの海外研究拠点がある。いずれも、野生動物研究センターの設立に関わってきた研究者たちが、長期間の野外研究をおこなってきた調査基地である。多様な野生動物の研究が可能だ。

大学院教育は、京大の理学研究科生物科学専攻でおこなうことになった。生物科学専攻の「霊長類学系」を平成20年度当初から「霊長類学・野生動物系」と改称した。霊長類研究所と野生動物研究センターの2部局が協力して大学院教育をおこなうしくみである。野生動物研究センターとしては、毎年度5名程度の採用を予定している。修士の2年間を経て動物園・水族館等に就職してはどうだろう。博士から編入することもできる。獣医を卒業したあと3年間、京都にきて野生動物の研究をし、その間にアフリカやボルネオで実習して博士学位を取得する道が開けた。実際に、平成21年度入学の修士入学試験には21名もの受験者があった。そのうち5名が合格した。また、博士編入試験によって2名が合格した。そのうち1名は獣医師として有職者のまま働きながら学ぶ大学院生となる。在職大学院生として理学博士の学位をめざす新制度を設けた。その第1号となった。

フィールドワークと動物園

教授として、伊谷原一、幸島司郎、村山美穂の3名が着任した。准教授として、杉浦秀樹、田中正之、中村美知夫、タチアナ・ハムルの4名がいる。寄附研究部門に、中村美穂、藤澤道子、森村成樹がいる。合計10人の教員で野生動物研究センターが構成されている。彼らのフィールドワークの足跡を追えば、北極やグリーンランドやパタゴニアやヒマラヤから、アフリカの熱帯林や乾燥したサバンナ、そして海中にまで及ぶ。なお、10人の教員の中、女性が4人を占める。40%の女性教員比率である。外国人客員准教授も1人いる。これらの教員が主にフィールドワークをするとともに、幸島と村山の両教授のようにDNAの解析技術にも詳しい。

野生動物研究センターの教員がこれまで扱ってきた野生動物は、サイ、イルカ、シャチ、オオカミ、チンパンジー、ボノボ、ほかにウシやウズラやイヌなどの身近な動物もいる。10人の兼任教員には、ゴリラの山極寿一、ゾウやクジャクの長谷川寿一、アホウドリの長谷川博、哺乳類全般の遠藤秀紀らがいる。

野生動物のフィールドワークは、大型類人猿の研究では日本が世界の第一線にある。しかし、その他の野生動物の研究では大きく遅れをとっている。新センターから、ゾウや、キリンや、サイや、イルカや、ペンギンの研究者が育ってほしいと願っている。

大学と動物園との連携も進みつつある。野生動物研究センターの発足を契機として、2008年6月18日には、尾池総長と松原武久名古屋市長のあいだで、京都大学と名古屋市のあいだで連携協定書が調印された。野生動物研究センターと東山動物園を中核とした大学と市との包括的な連携である。その最初のシンボルとして、2008年11月9日に、東山動物園のチンパンジーの屋外運動場が改装され、新設した「チンパンジー・タワー」がお披露目された。

なお、2008年4月には、野生動物研究センターの准教授になった田中正之が、着任してすぐに毎日の職場を京都市動物園として、そこに常駐して研究を始めた。京都大学と京都市のあいだの連携協定書も、尾池総長と門川大作市長のあいだで4月18日に取り交わされた。大学と動物園が連携して、野生動物の自然の生息地での研究と、動物園での環境教育とをさらに推進することを期待したい。

関係各位への謝辞

京都大学野生動物研究センターの設立にあたって、尾池和夫総長をはじめとした多数の皆様方のご支援をいただいた。丸山正樹、松本紘、東山紘久、木谷雅人、中森喜彦、北徹、西村周三の7名の理事・副学長から、それぞれのお立場から厚いご支援を賜った。そのなかでも、4名の理事・副学長には、野生動物研究センター設置準備委員会にご参加いただき、センター組織の骨格から人事まで細部にわたってご検討いただいた。企画担当理事である丸山副学長には、企画段階から

お世話になり、京都市（京都市動物園）との橋渡しを最初にしていただいた。研究担当ならびに財務担当理事の松本副学長には、新センターの研究計画の実現に必要なご助言を賜わると同時に、尾池総長の指名により、初代の連携協議員に就任いただいた。事務担当理事の木谷副学長には、事務職員の配置や、センター設置場所についてご尽力いただいた。施設担当理事の北副学長には、耐震改修工事中の吉田構内で新センター施設の確保にご配慮いただいた。具体的には旧工学部1号館や4号館ならびに学生支援機構の建物の使用である。

野生動物研究センター設置準備委員会には、上記の4副学長に加えて、加藤重樹理学研究科長、川崎良孝教育学研究科長、平松幸三アジア・アフリカ地域研究研究科長、高林純示生態学研究センター長、白山義久フィールド科学教育研究センター長、水野廣祐東南アジア研究所長、松林公蔵東南アジア研究所副所長、山極寿一理学研究科教授、渡邊邦夫・景山節・遠藤秀紀・霊長類研究所教授、長谷川寿一東京大学教授、中道正之大阪大学教授にご参加いただいた。4回にわたる審議を重ねて、組織、人事、規定等の審議をおこなうとともに憲章を制定した。大学院教育の実現にあたっては、理学研究科の加藤理学研究科長はじめ、淡路敏之、平野丈夫、七田芳則、今福道夫の各教授にお世話になった。とりわけ加藤理学研究科長のご配慮なくしては、年度当初からの大学院教育の早期実現はできなかった。なお、短期間で膨大な量の事務作業が必要であり、霊長類研究所の井山有三事務長とその後継の小倉一夫事務長、河田友彦会計掛長、細川明宏総務掛長はじめ事務職員各位の尽力なくしては実現しなかった。

京都市動物園との連携については、京都市の門川大作市長、星川茂一副市長と、京都市動物園の上田至園長とその後継の長谷川淳一園長、ならびに平田洋義副園長とその後継の秋久成人副園長、そして飼育課担当で獣医師の坂本英房係長にとりわけご尽力いただいた。名古屋市東山動物園との連携については、松原武久名古屋市長、山田雅雄副市長、緑政土木局長の渡辺恭久氏とその後任の村上芳樹局長、原口辰郎東山総合公園長、東山動物園の小林弘志園長と橋川央主幹、東山再生推進室の堀場和夫参事、大井憲司再生推進室長の各氏にご尽力いただいた。なお、寄附研究部門（福祉長寿研究部門）の移管については三和化学研究所の山本一雄社長のご理解とご支援を得た。センター長の伊谷原一教授の割愛においては、林原健・林原グループ社長の厚いご理解を得ることができた。

霊長類研究所は、野生動物研究センターを生み出す母体となったことを誇りに思う。霊長類学のさらなる発展のためには、「霊長類」という枠をいったんはずして、「野生動物」というより広い視野から研究を進めることが必要だと理解したからである。しかし、そのために払った犠牲もけっして小さくない。そうした犠牲を理解して快く賛同してくださった所員各位にも感謝したい。将来計画委員会での熱心な討論と協議委員会の議を経て、附属研究施設である「ニホンザル野外観察施設」を廃止し、その教員ポスト2名を提供した。さらには、研究所のもつ唯一の外国人客員准教授ポストも差し出した。また施設の技術職員2名も提供した。さらには、霊長類学60年の伝統というべき幸島観察所と、世界自然遺産の屋久島にある屋久島ステーションという2つの建物も提供した。すなわち、霊長類研究所は、教員ポスト3名と技術職員ポスト2名と2つの建物を提供し、さらには寄附講座を3名の教員とともに差し出したことになる。最後に、そうした意気込みを真正面から受け止めて、4名の重点施策定員を措置してくださった尾池和夫総長以下7人の理事からなる役員会の英断に深く感謝したい。絶滅の危機に瀕した野生動物の研究の必要性を理解し、「探検大学」と異名をとる京都大学のフィールドワークの伝統を重く受け止めてくださった。1958年に、今西錦司と伊谷純一郎はアフリカ初探検をした。同年に、西堀栄三郎の率いる南極越冬隊が初越冬に成功した。同年に、桑原武夫の率いる京大士山岳隊がカラコルム・ヒマラヤのチョゴリザ峰に初登頂した。今西、西堀、桑原は、京大の山岳部の同級生である。奇しくもちょうど50年後の年に、京大の掲げるパイオニアワーク（初登頂の精神）を受け継ぐ部局が誕生したことになる。

もはや紙幅が尽きて、こうしてお名前を挙げるができないが、京都大学内外の多くの皆様方のご支援なくして新センターは実現しなかった。改めて、皆様方に深く感謝の意を表したい。

2008 年度 京都大学野生動物研究センター年報

発行者

京都大学野生動物研究センター

〒606-8203 京都市左京区田中関田町 2-24

日本学生支援機構 3 階

電話: 075-771-4393 FAX: 075-771-4394

<http://www.wrc.kyoto-u.ac.jp/>

2009 年 3 月発行



www.wrc.kyoto-u.ac.jp